

月山 SUNSUN 山菜祭り

月山・清川行人小屋(2024/5/18-20)

L : A原、K林、Y科、K野、H口

スキーシーズンの締め括りに毎年企画されている月山・清川行人小屋へのツアーに初めて参加させてもらった。ただの山スキーではない。小屋に大量の山菜を持ち込み今シーズンのスキーへの感謝を山菜三昧の宴会によって謝するという一大イベントなのだ。はるばる名古屋からK野ちゃんに参加したことからもその格の高さがうかがい知れよう。

I. 祭りの準備

宴会用の新鮮な食材は地元の道の駅で購入するのだが、オープンが9時のため前日からのスケジュールはそれに合わせて決められる。道の駅にはオープンの45分前には着いたものの入口には山菜を買い求める人の列がもう出来ていた。

無事仕入れを終えて月山スキー場へと向かうが、この時期の月山はスキーヤーが集中するためゲレンデ近くの駐車場は既に満車で志津の駐車場に回されそうになった。しかしここでAねーさんのノウハウと交渉力が発揮され、みごとゲレンデ近くに駐車させてもらえることとなった。祭りは滞りなく進められねばならない。

駐車場で共同装備(大量の山菜)が分けられ、荷物を背負って歩き出したのは10:15、少し離れたリフト乗り場までは板を抱えて歩く。リフト乗り場に着いたら長蛇の列。駐車場が混んでいるのだから無理もないが、列の最後尾に向かっても上から滑って来た人たちが次々と列に加わり列は伸びていくばかり。なかなか列に入れない。

やっとのことでリフトに乗る。昨年も雪が少なかったそうだが今年はさらに少ないようでリフトの下には雪が無い。周りも新緑の木々である。

「下に雪が無いとリフトってこんな高いんだ。怖いね」とAねーさんが言っていた。

シールを付けてリフトトップから歩き出したのは11:10。雪面には薄い茶色が混じっている。例年は四ッ谷川に滑り込んでそこから“山菜ルート”と命名された斜面を上がるそうだが、今年は雪が少なく藪漕ぎが長そうなのでやめ、月山山頂から回って行くことにした。

歩き出して間もなく姥ヶ岳側面部のゆるいカーブに沿った長いトラバースとなる。月山に来たなと感じさせられる所だ。



しかしトラバースの途中を灌木帯が横切っていた。上方には切れ間が無いので仕方なく40m下って越えることにした。下った所で一本目を取った。天気は良かったが、てんくらの予報では風が強くCとなっていたが今は感じない。

「てんくらAだね」とAねーさんが私のおかげだとばかりに言った。靴擦れが気になって靴下を脱いだK野ちゃんの足からポワワワ〜とした空気が漂ってくるほどの穏やかさだった。

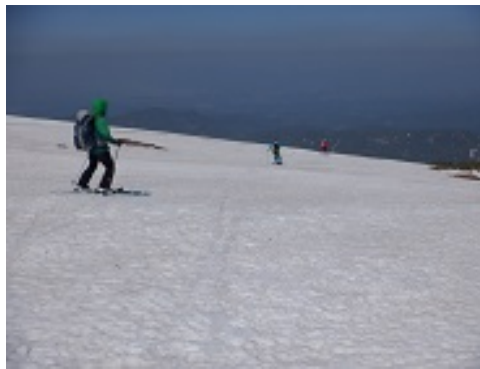
再び歩き出しトラバースから斜面の上に取り掛かると少しずつ風が気になりだした。穏やかだったのは姥ヶ岳の側面だったからだ。

ジグを切って上がって行くと雪の切れ目が見えてきた。山頂まで150mを残した所で雪は切れ、板を外しシートラとなる。風も強くなっていたのでレインウェアも着た。すると「ここからは私が」と言わんばかりに毎年参加のY科さんが先頭を歩き出した。あたかも夢咲案内人という体であった。

山頂に近づくと風はさらに強い。ザックに取り付けた板が風を受ける。頂上小屋の陰に荷物をデポしせっかくなので月山山頂を目指す。K野ちゃんは初月山だそうだ。

13:20、月山山頂。風に煽られながら見渡すと、2月に滑った湯殿山が緑と白の縞模様になっていた。もう滑ることはできないがこれはこれで見ている分にはきれいだ。遠くには朝日連峰の白い連なりが見える。KANちゃんはその朝日連峰を2週間前に歩いてきたのだから感慨深いだろう。

デポ地に戻って板を履く。幸い雪はつながっていそうで14:10、南南東の大雪城へと滑り出した。広く、そしてゆるく湾曲した月面のような雪面を自由に滑って行く。シャーッと音を立てるザラメの心地良い滑り。



しばらく下った所で立ち止まり

「そろそろ小屋が見えてきてもいいんだけどな」とAねーさんが言う。「確か、あの鶏の足みたいな所を目指して行けばいいんじゃないかと」とY科さん。指した方向には山の斜面が削れてまさしく鶏の足みたいに見える所があった。地図とコンパスで方向を確認して滑って行くと目指す小屋がようやく見えて来た。

小屋までもう一滑りという所で

「小屋に行くのに、真下まで滑って板外して夏道を上がるか、右から回り込んで滑って行くか、どちらでも行けるんだけど、自分の好きな方で」そう言ってAねーさんは真下へと滑って行った。おおかたのメンバーがAねーさんに続いたが、K野ちゃんだけが右に回り込んだ。

板を外し夏道を上がって行くと細い道の両脇にお出迎えするかのようにカタクリの花が連なっていた。そして14:30、清川行人小屋に到着した。

小屋には先客として3人のオジサンたちが居た。ザックからビールを取り出し雪で冷やしに行く。ところがまだK野ちゃんが来ない。裏へ回り呼んでみたが返事が無い。でもすぐそこで別れたのだから間もなく来ることだろう。

荷物を二階に運び寝床を整えてから一階に下り、机2卓を出して宴会場を作った。K野ちゃんがやっと着いたのはそんなタイミングだった。回り込んで小屋のすぐ近くまで来たがそこからが濃い藪でなかなか前に進めずもがいていたようだ。

II. 山菜祭り

メンバーが揃ったので宴が始まる。まずは大鍋に湯を沸かす。もちろんビールを飲みながら。シオデのお浸しから始まり、次から次へとAねーさんの手になる山菜料理が振る舞われる。シオデのごま和え、カタクリの酢味噌、行者ニンニクみそ…etc. これが山菜祭りか！

途中、手が足りなくなったAねーさんが
「ちょっとこれ炒めといて」と言うと、そこへ手を出したのが KAN ちゃんであった。
目鼻口を顔の中心に集め、フライパン片手にチャッ、チャッ、チャッと食材を混ぜ合わせるその姿はまさに町中華の大将であった。

Y科さんがのそ〜と立ち上がり膝を曲げたまま辛そうな顔で歩き出した。まさか何か当たったか？

「大丈夫？」と手を止めAねーさんが尋ねると

「はい、膝がどうも…」と言って自分のザックからパック酒を取り出した。

ローストビーフのウルイ添えなんてのも出された。繊維ばかりの中にタンパク質が加わったわけだ。ちょうど持ってきた赤ワインに合うじゃないかい。

そしてタケノコご飯、タケノコのサバ缶汁というザ・メインディッシュが出され宴も終盤となってきた。たっぷりのお酒と相まって幸福感に満ちていた。



オジサンたちが寝床に入ったのを潮に我々も二階へ引き上げた。もう少し飲み続けるつもりだったが、長距離運転のドライバー二人から先に電池が切れていったようである。

二日目は山を下りるだけなので起床時間は特に決めていなかった。階下のオジサンたちがカチャカチャし出したのをきっかけに少しずつ起き出した。今日も天気はいい。

山菜祭りはまだ続く。ワラビのお浸しに続き、昨日はお腹いっぱい今日に回した月山山菜そば。そしてメは行者ニンニクのペペロンチーノである。山菜を使い切った。食べ切った。祭りの余韻に満たされた。

Ⅲ. 祭りのあと

小屋の掃除をして外へ出る。小屋の前や咲き残った桜の前で写真を撮ったりした。とてもいい小屋だったな。名残惜しいのだが

「YAMAP のボタン押しちゃったのでもう行こうよ。」

8:45、小屋を出発。今日はK野ちゃんもカタクリロードを通って一緒に雪面に下りた。こっちの方が全然楽だったでしょう。

縦溝が走る斜面を順番に上がり始める。下の方は斜度があるので少し歩いて振り返っただけでもう小屋が下方に見える。

木々も無くビターッと広い斜面。目印の無いままに上がり続けると右前方に岩が出た所があり、そこでようやく先頭に行く KAN ちゃんが一本を入れた。そこには雪解け水が流れ出していた。

この上からは傾斜がゆるくなった。次に一本入れたのは胎内岩である。朝日岳から以東岳の連なりが見えた。ここから見ても稜線の距離が長い。I 崎さんと KAN ちゃんはよくあんな距離を一日で歩いたものだ。

山頂までもう少し雪がつながっているが、どうせシートラしなければならぬので少しトラバースして夏道に行くことにした。下山路になると急に人が増え、シートラで歩く人も居る。岩の段差をスキー靴でコツンコツン下り、雪の付いた所まで下る。雪の付き始めた所は狭く、板を履こうとする人で混んでいた。日本海に粟島が浮かぶのが見えた。

滑降開始は 12:10。トラバースの始まる辺りまで下ったが、トラバースで歩くよりせっかくなら滑りたいので 100m の上り返しを覚悟して四ッ谷川に向かって滑り下りることにした。

「さあ、今シーズン最後の滑りだよ。」

ズザーッ、ズザーッとザラメを滑る。下るにつれてザラメも重たくなってくる。下の方では縦溝が走り足裏にいやな振動が伝わって来た。

今シーズン最後のシール歩行で稜線まで出るとリフトから下りて板を担いで上ってくる人の多いこと。スキー場のゲレンデがやけに混んでいると思ったら『コブ戦』という大会が行われているらしい。人に注意しながら滑り下りリフト乗り場に到着。階段を下りた所でまた板を履くと舗装路脇の細々とした雪のつながりを辿って駐車場の近くまで下ることができた。13 時駐車場に到着。板と靴を水道で洗わせてもらってから車に戻った。

さて、そんなわけでスキーシーズンは締め括られたが山菜祭りは新たな局面に入る。実は今日、大井沢の民宿 S に泊まり宿の自慢の山菜料理をいただくことになっている。めくるめく素敵な仕掛けがなされたこのスキー納めの山菜祭り、来年も参加しないわけにはいかない。

(H口 記)

